

海外における統合型リゾート（カジノ）に関する動き

■ 概要

- カジノは、日本では刑法で禁止されているが、世界では120カ国を超える国々で合法化されており、観光振興、地域活性化、雇用創出、税収増大等に寄与。
- 近年、アジア地域では、ラスベガス資本を中心とした大型カジノ・エンターテインメント施設の建設が進行。
- シンガポールでは、観光振興を目的に2005年にカジノを合法化。2010年にターゲットが異なる二つの統合型リゾート（IR）がオープン。
- マカオでは、2002年にカジノ市場への外資参入を認め、2006年にはカジノの総収益がラスベガスを抜いて世界一に。

■ シンガポールにおける統合型リゾートについて

背景	アジア各国の発展に伴う観光産業の低迷 ※外国人訪問客数（2000年～04年） （シンガポール7.8%増、タイ21.9%増、マレーシア53.9%増）
統合型リゾート（IR）計画（2005.4）	・アジア域内の観光客を惹きつけ、競争に勝つ象徴的な訪れるべき施設。 ・マカオやラスベガスの施設とは根本的に異なるカジノをその核に含む複合観光施設。カジノは総施設面積の5%内。
IR導入による効果	・直接雇用 35,000人 ・経済効果 15億シンガポールドル（975億円：1S\$=65円換算） （GDP 6%増）
セーフティネット対策	・シンガポール国民への入場料の賦課（100S\$/日、2000S\$/年） ・クレジットによる賭け、カジノ施設内への銀行ATM設置の禁止 ・依存症対策国民協議会の設置（国民教育の推進、依存症治療プログラム等の効果検証、政府へのアドバイス等）等

シンガポールにおける統合型リゾート（IR）

【リゾート・ワールド・セントーサ】

- ・敷地面積 約49万㎡
- ・ファミリーをターゲット
- ・ホテル4棟（1800室）、カジノ、シアター、ショッピング・グルメモール、ユニバーサル・スタジオ、海洋水族館（今後オープン）等により構成

【マリーナベイ・サンズ】

- ・敷地面積 約20.6万㎡（延床面積約57万㎡）
- ・ビジネス客をターゲット
- ・ホテル3棟（2600室）、カジノ、シアター、ショッピング・グルメモール、コンベンションホール（12万㎡）、空中ガーデン等により構成